

口永良部島

概 況

火山性地震は 13 日までやや多く発生しましたが、その後は減少しました。また、火山性微動の発生回数は 2 回と少なくなりましたが、火山活動はやや活発な状態で推移しました。

噴煙活動の状況

上屋久町口永良部島出張所によると新岳・古岳からの噴気には特に変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、新岳・古岳からの噴気は観測されませんでした。

地震・微動活動の状況

火山性地震は 13 日まで日回数が 10 回を超える日があるなどやや多く発生し、月回数は 134 回(4 月: 61 回)でした(図 1)。震源は、新岳直下付近でした(図 3)。

火山性微動は 9 日と 25 日に各 1 回発生し、月回数は 2 回(4 月: 29 回)でした(図 2)。

噴気地帯及び地殻変動の状況

22～29 日に機動調査観測を実施しました。新岳及び古岳火口付近に噴気を確認しましたが、今年 2 月と比べ、特に変化は認められませんでした(図 4)。また、GPS 及び光波測距観測でも火山活動に起因する変化はありませんでした(図 4)。

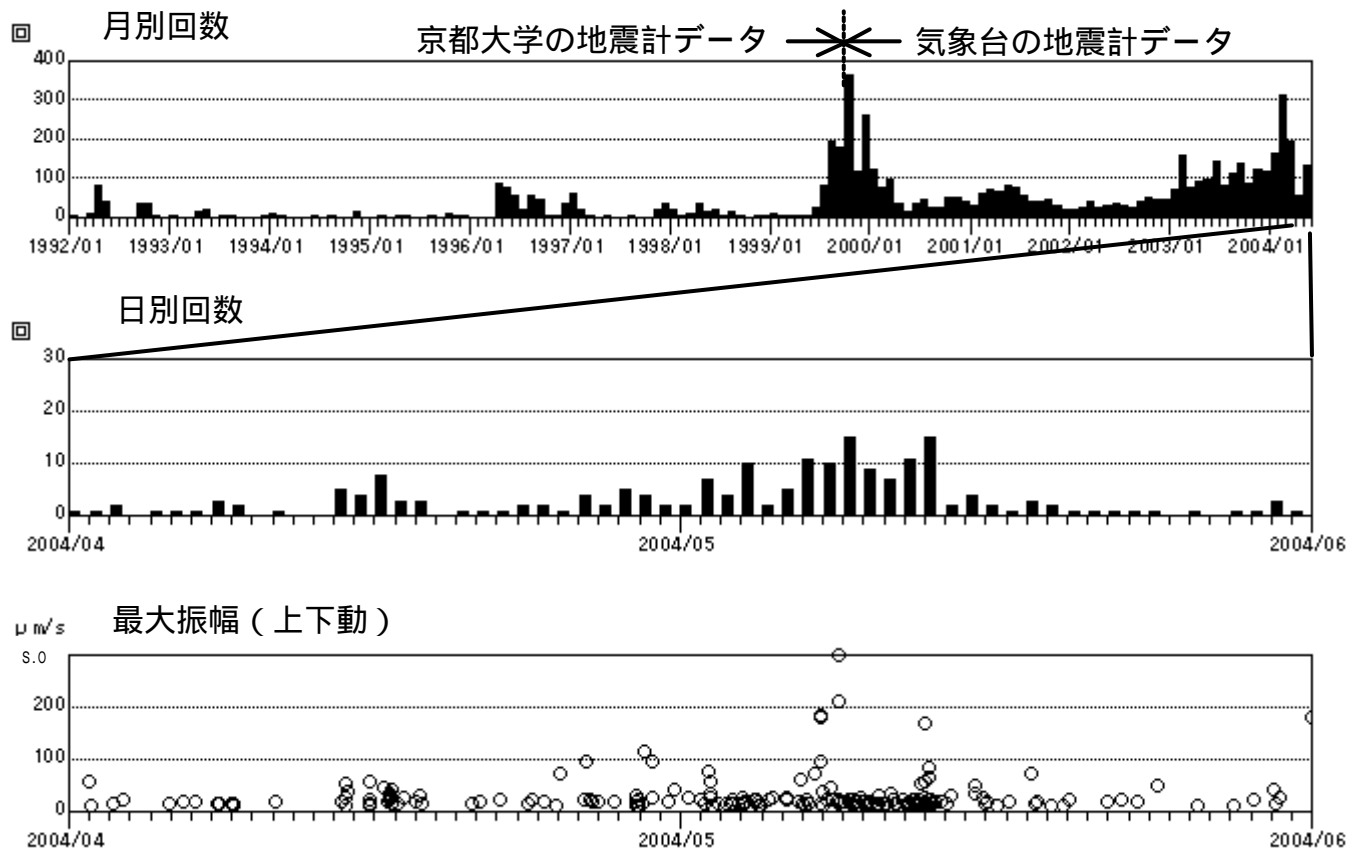


図 1 火山性地震活動経過図(1992 年 1 月 1 日～2004 年 5 月 31 日)
(1999 年 9 月 12 日までは、京都大学が口永良部島観測点の地震計で計数したデータを利用)

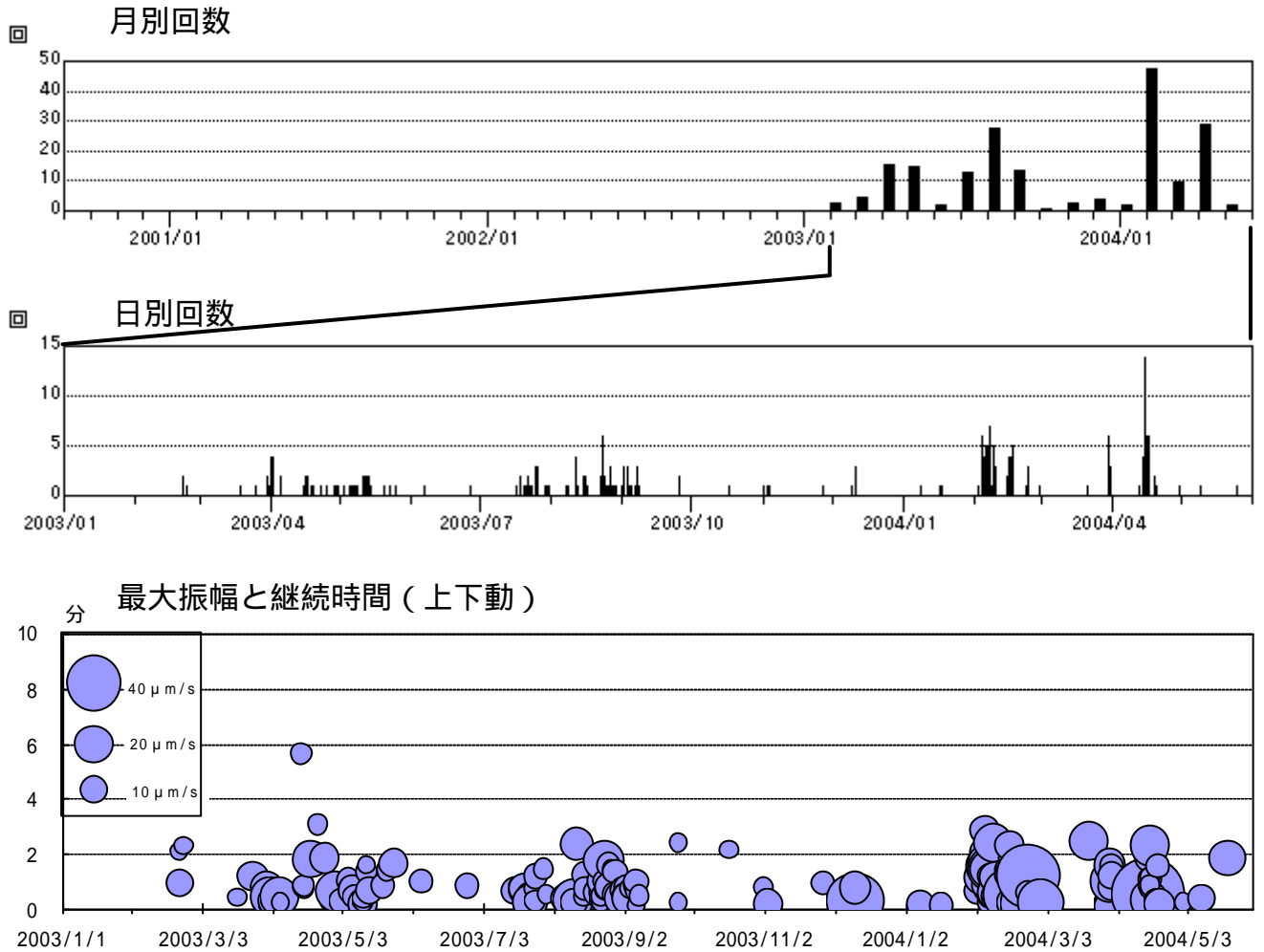


図 2 火山性微動活動経過図(1999 年 9 月 13 日 ~ 2004 年 5 月 31 日)

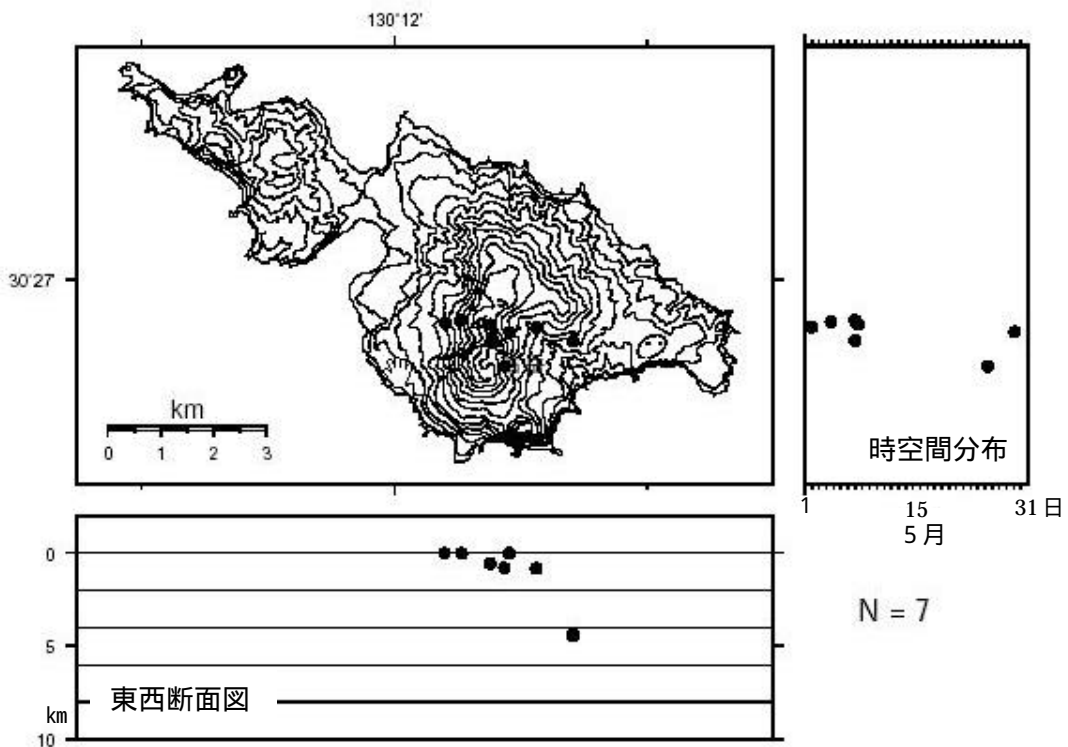
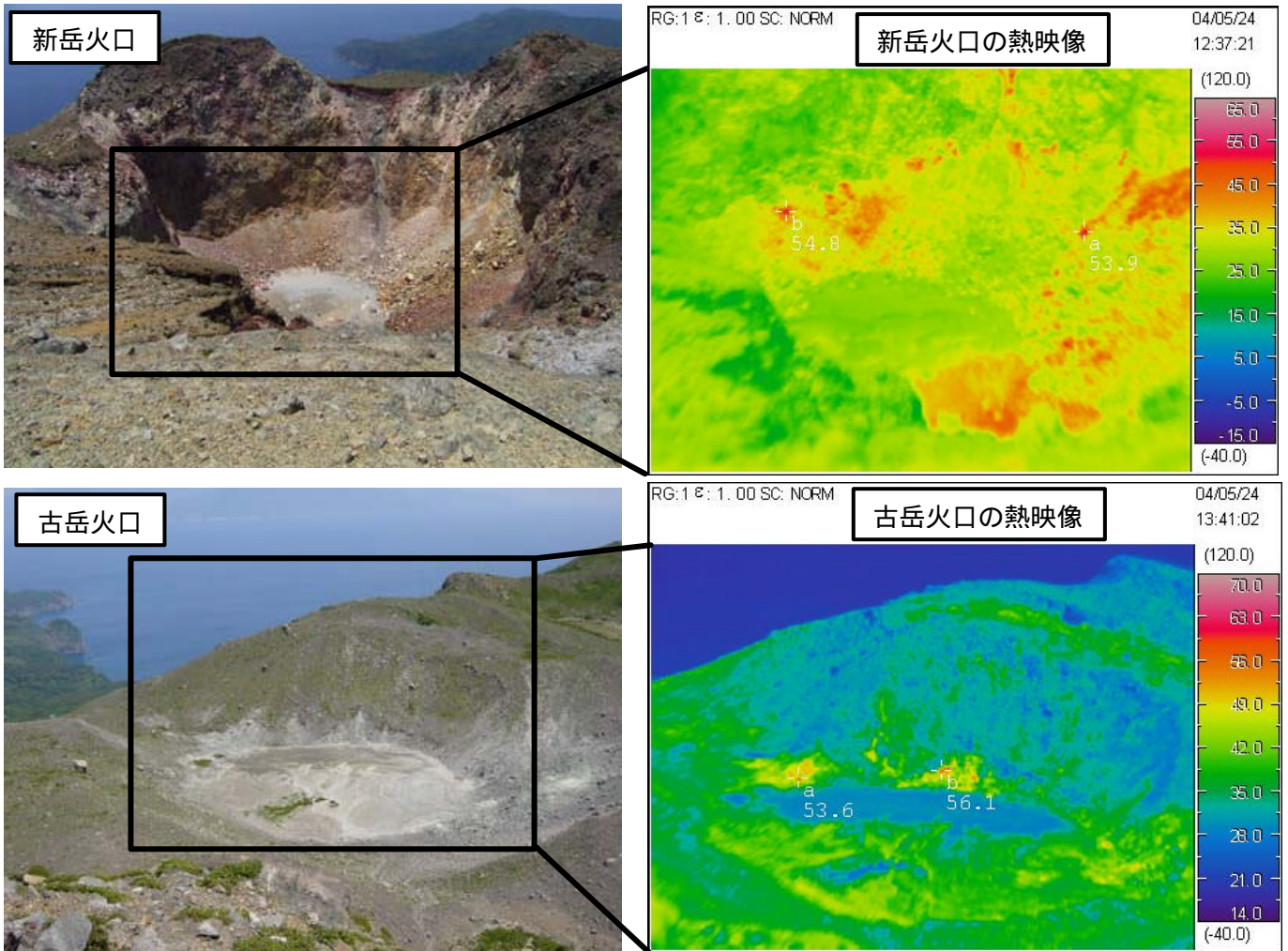


図 3 火山性地震の震源分布図(2004 年 5 月 1 ~ 31 日)

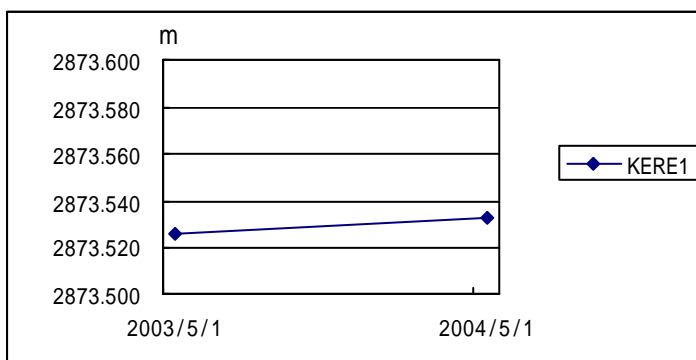


2004 年 5 月 24 日

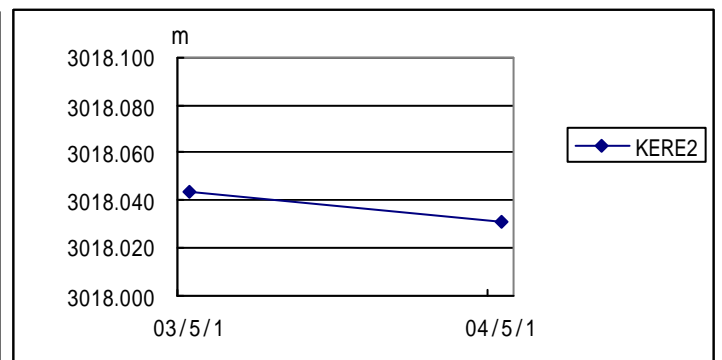
新岳火口周辺及び古岳火口に噴気が見られました。

熱映像観測では、火口底には熱異常は認められませんでした。

新岳火口底南西及び北側の一部に 50 を越える場所がありました。また、古岳火口南東及び南西側にも 50 を越える場所がありました。



口永良部島出張所、KERE1 間の斜距離変化



口永良部島出張所、KERE2 間の斜距離変化

2004 年 5 月 26 日

光波測距観測にも火山活動が起因する変化は認められませんでした。

図 4 噴気地帯及び地殻変動の状況

口永良部島

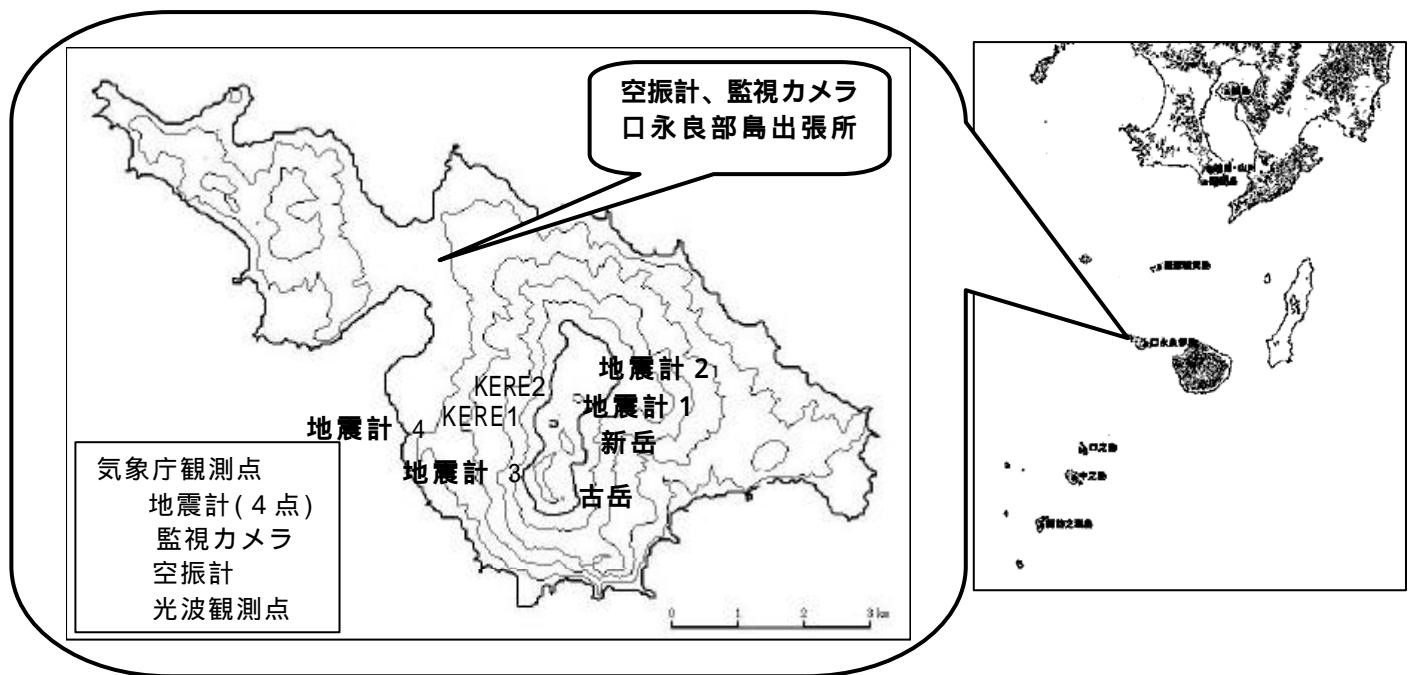


図5 観測点位置図